

第 37 回日本死の臨床研究会の記録

基調講演

1. 癒しの国・出雲 藤岡大拙

特別企画講演

1. 元気な明日（あした）のために—がんに負けない 仁科亜季子

震災関連特別企画公演

1. 喪に服すこと—東日本大震災をうけて 佐藤美希

主題講演

1. つなぐこと、つながること 柏木哲夫

市民公開講座

1. いのちの旅先 徳永 進

シンポジウム

1. いのちをつなぐ 総合コメント・司会 中橋 恒・福地智巴
医師としての 30 年を振り返る（大会長講演） 安部睦美
在宅ホスピスの実践と普及を目指して（大会長講演） 石口房子
在宅医療の現場から 平原佐斗司
小さな町のホスピスケア 大石睦子
2. 老いて死ぬこと—高齢者のいのちを考える 総合コメント・司会 梅田 恵・吉岡佐知子
「生老病死」を地域に取り戻せるのか？ 松本祐二
老いて死ぬこと—高齢者のいのちを考える 高岡信也
生活の延長線上の看取り 桑田美代子
高齢者の終末医療とケア—Evidence-Based Narrative の構築へ 会田薫子
3. いのちをつなぐ—がんのリハビリテーション 総合コメント・司会 佐藤哲観・久保山千鶴
緩和ケアが主体となる時期のリハビリテーションの役割 辻 哲也
終末期がん患者への理学療法士の役割・取り組みについて 矢木健太郎
「食べて味わう」「自分の思いを伝える」ことの大切さ
—終末期における言語聴覚療法 安藤牧子
緩和病棟においてリハビリテーションがもたらす効果と看護師の役割 笠谷美保

ありかた特別委員会主催シンポジウム

1. 日本死の臨床研究会—これからのありかた
～会員意識調査の結果を踏まえて 総合コメント・司会 山崎章郎
会員意識調査結果から想うこと 三枝好幸
“死の臨床”への期待—看護師の立場から 田村恵子
「死の臨床」に求められるもの—ソーシャルワーカーの立場から 田村里子
“死の臨床”研究の二方向性の提言—宗教家の立場から 佐藤雅彦
死に焦点をあてる 柏木哲夫

企画委員会〈ミニシンポジウム〉 真の援助者を目指して

小澤竹俊

ワークショップ

1. よくわかるスピリチュアルペインとそのケア—その理論と実際 山崎章郎
2. コーチングの視点で考える「ストレスコントロール」—ストレスと仲良しになる 足立博俊

ミニワークショップ

1. ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法—音楽がつなぐ人と人 鎌木陽子
2. 看取りの質を高めるための一工夫—看取りのパス Liverpool care pathway 日本語版を活用して
看取りのケアを考えるミニワークショップ 茅根義和、他

パネルディスカッション

1. 難しい場面の意思決定支援 総合コメント・司会 志真泰夫・田村恵子
自己決定を拒む人の意思決定支援 阿部泰之
独居・孤立者の意思決定支援 川村和美
認知症者の意思決定支援について 西山みどり

セミナー

1. 『古事記』における死と現代の死 鎌田東二
2. 闘病記を書くことの意味—ナラティブ論からのアプローチ 門林道子
3. スタッフのストレスマネジメント—ケア提供者はケアされていますか？ 小野芳子
4. 神経疾患の終末期ケア 難波玲子

教育講演

1. 共に支え、共に生きる 沼野尚美
2. 宙（そら）を見ていのちを想う 内藤いづみ
3. こどもの「いのち」の傍らで 細谷亮太

特別企画「つながるがんサロン広場」

1. がんサロンで学びあい、語ろう 総合コメント・司会 石口房子・横山幸生
島根 がん情報サロン「ちょっと寄って見ません家」 佐藤愛子
広島・ホスピスケアをすすめる会 竹原支部「サロンつむぎの路」 大石睦子
岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」 長澤昌子

国際交流委員会主催

Beyond Gender : Understanding the Ways Men and Women Grieve
(性差を超えて：男性・女性の悲嘆方法の理解によせて) Kenneth J. Doka

国際交流広場

Disenfranchised Grief 公認されていない（憤む権利をはく奪された） グリーフ Kenneth J. Doka

事例検討

1. 「娘のために生きなければいけない」
—余命1ヵ月、意思決定を変換し最期まで化学療法を希望した事例 近藤由香里
2. 小児がん終末期患者の在宅療養を実現するために必要なこと
—最後まで自宅で過ごした患者と両親との関わり 高橋 純、他
3. コミュニケーション支援（手話通訳）を要する患者へのチーム形成と協働のあり方 上田宏隆、他
4. 積極的治療中止を苦しみからの解放と捉えた患者への関わり 松原 操、他
5. ダウン症児の受容段階に差がある両親が、白血病で子どもを亡くした後にむかえた夫婦の危機
清藤育子、他
6. 自由に動きたい患者に対し転倒を避けたい看護師のジレンマ
—マンパワーに限界がある中での対応 神信美砂、他
7. キーパーソンが不明確に関わりに難渋した事例 久米律子、他
8. 緩和ケア病棟で看取った幼児終末期の1例 前里喜一、他
9. 「知ってる人に見て欲しい!!」—在宅療養でのサービス導入を拒んだ家族ケア 桐畑由実、他
10. 「まだ私を苦しめるの」と夫を責め鎮静に至った事例
—看取り直前に突然寄り添えなくなった家族 古林典子、他
11. 気分の変動が大きく、対応に苦慮した若年の終末期悪性腫瘍患者の1例 阿部恵子、他
12. 看護師が患者に近づくことができなかった事例の検討 池田奈々子、他
13. 信念対立はコミュニケーションによって解決できるか
—患者・家族の希望を叶えられなかった事例から 大澤久美子、他
14. 生と真摯に向き合う人々の実存的な苦痛にどう向き合えばいいのか？ 蓮尾英明
15. 告知を望む患者に対し告知を拒否し続けた家族との関わり
—初診から17日で死亡に至った症例において 柳原恵梨、他
16. 2型呼吸不全で人工呼吸器を装着した終末期がん患者との関わり
—怒りを表出し要望を強く訴える意味とは 富田 俊、他
17. 胃ガンで息子を看取った悲嘆を抱えながら、同じがんをもつ死にゆく患者への関わり
井上和子、他

原著

1. ホームホスピスで働くスタッフの死生観と終末期ケアに対する認識の変化 岡本双美子・他

調査報告

1. がん診療連携拠点病院15施設に対する聴取調査によるがん患者サロン実施要件の検討 藤本喜久恵・他
2. 肺がん患者を有する家族の相談に関する研究
—積極的治療から症状緩和移行時の症状説明を受けた直後に焦点を当てて 萩原綾香・他
3. 闘病が短い子どもへの死別ケア 坂下裕子
4. 特別養護老人ホームにおける看取りの阻害要因—看取りの推進に困難性を抱える施設調査 橋本美香・他